

# 学校だより

京都市立音羽中学校

特別号



## 全国学力・学習状況調査結果より

4月21日に、全国一斉に実施された『全国学力・学習状況調査』について、本校3年生215名が受けた結果を報告させていただきます。

今年度の本調査は、国語、数学、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間などについての調査も実施されており、生活習慣と学力の関係などの状況についても知ることができました。

### 総合結果（国語・数学・理科）

本校生徒の結果は、国語A・国語B、数学A・数学B・理科〔A：主として知識，B：主として活用〕ともに全国平均を下回っており、家庭学習の定着や、授業への積極的・意欲的な取組をさらに進めることが大切であると考えます。なかでも、記述式の問題は、苦手としている面が見られ、表現力をつけていく必要性が大きな課題となっている。

### 国語科より

#### 【国語A（主として知識）】

授業時に繰り返し練習したと思われる内容の設問で良好な正答率が見られる。また、チャレンジ体験事業で経験した手紙の形式の問題は正確に答えられている。

その一方で、漢字や語句などにおいても、問題のレベルが少し上がると忽ち正答率が下がる傾向が見られる。また文章題においては、短く易しい文章であるにもかかわらず、落ち着いて内容をとらえることができていない。

5～10行の短い文章とそれに対する2～3問の素直な問題の繰り返し練習が有効であると思われる。また、グラフや絵・表などを使った問題に慣れていくことも求められる。

#### 【国語B（主として活用）】

全体として2～3ポイント低い中で求められる課題は多いが、文章にまとめて答える3つの設問においては思ったよりも正答率が高い。字数が比較的少ないことと、答として求められる内容が明確だったことが原因と思われる。

文章題においては問題文の分量がAに比べて増えることで、内容を把握しきれなくなる弱点が見られる。小説問題においても前段と後段の場面を分けて整理することができていないように思われる。

原稿用紙に文章をまとめたり、身近な題材を元に自分の思いや考えを短く表現する経験を積み重ねることが有効だと思われる。

## 数学科より

### 【数学A（主に知識）】

「数と式の計算」や「図形の基本的な知識」はおおむね身につけている。ただし、文字式のもつ意味についての理解が不十分なようで、「数量の関係を文字式に表す」、「等式の変形」、「体積の公式を文字式で表す」となると正答率が下がる。

また、『関数』や『資料の活用』の単位については、基本的な知識が定着していないことが分かる。特に、「関数のグラフに関する問題」や「資料の中央値」に関する問題が十分に出来ていない。

### 【数学B（主に活用）】

共通して言えるのは、問題の文章を読みとる力が弱いところである。『関数』や『図形』の単位で、必要な知識は理解し、基本的な問題にチャレンジ出来ても、それを日常生活の事象の中で、活用することに課題がある。

まずは、毎日の授業を大切に、反復練習を重ねて基礎・基本の定着を目指したい。そして様々な事象を数学的に考察する問題にもチャレンジしたい。与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的知識を利用して、的確に処理できるような活動が求められている。

## 理科より

### 【理科A（主に知識）】

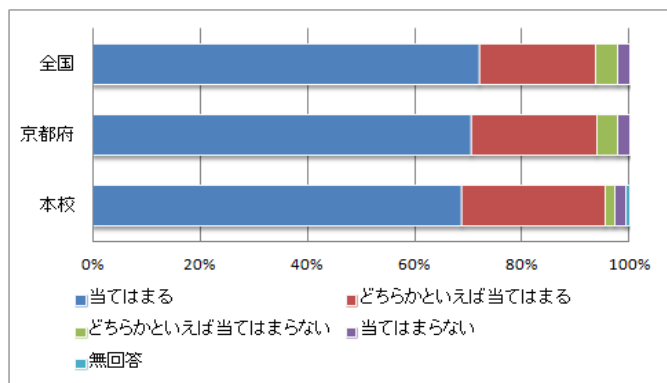
知識に関して、しっかりと定着しているものとそうでないものの差がはげしいことが分かる。濃度の計算などでは計算式の意味を理解しきれずに計算間違いをしている生徒が多数見られた。

### 【理科B（主に活用）】

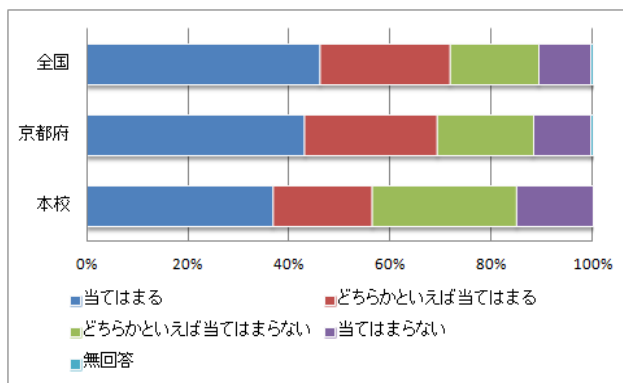
活用に関して、実験の結果を表したグラフや、実験の結果を言葉で記録した表を分析して解釈することは良好であった。一方で、実験の結果を数字で表した表を分析して解釈し規則性を見出すこと、さらに基礎的・基本的な知識・技能を活用し、グラフ・資料などに基づいて、自らの考えや他者の考えを検討し、改善することに課題が見られた。全体を通して、よくできているものについては全国平均と変わらない。無答率は全国平均とさほど変わらず、問題を投げ出さずに取り組む姿勢が見られるが、課題の見られるものについては全国平均と比して著しく低いものはいくつか見られる。

## 生徒質問紙調査より

Q1. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



Q2. 将来の夢や目標を持っていますか。



「人の役に立つ人間になりたい」と、約7割の生徒が答えている一方で、「将来の夢や目標を持っている」という生徒が、4割を切っているのが現状である。

また、「新聞を読んでいますか」という質問に対し、「全く読まない」と答える生徒が7割近くあり、「1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に対し、「10分より少ない、全くしない」と答える生徒が6割近くあった。新聞や読書を通して、社会を知る、ものの見方や考え方が広がる、自分の生き方を考える契機が多い。

本校では、全校生徒が通る玄関付近に、新聞を置き、いつでも見られる環境づくりをしている。そして、読書の習慣化を目指した朝読書に取り組んでいる。しかし、新聞や読書が十分でないこの結果をふまえて、図書室を利用して、文章を読み取る力、問題を解決する力をつけるため、図書室を利用した授業の展開を積極的に考えていく。

また、平日学校外の時間、土日の時間の学習についても、全国に比べて学習時間は少ない。ちなみに、土日の学習時間について、「1時間より少ない、全くしない」と答える生徒が5割弱ある。学習に対して、苦手意識をもち、消極的になると将来の夢にもつながらない。毎日の授業、家庭学習の大切さを改めて確認し、頑張りたい。

## 保護者の皆様へ

本校生徒の課題を克服していくためには、学校においてさらなる授業改善にさらに取り組んでいくことは言うまでもありませんが、生徒の生活習慣の向上や家庭学習の習慣化など、保護者の皆様のご協力も大変大きな要素となってきます。ご家庭と学校が連携をさらに深めて、生徒達の希望の進路実現を目指し、取り組んで参りたいと思います。ご協力いただきますようお願いいたします。